

こうじのうきのしょうがい

高次脳機能障害ブック

- ステップ1 -

「障害を知り、サポートを知ろう」



1 高次脳機能障害とは	・・・P2
2 症状と対応について	・・・P3
3 症状等の経過やサポーター	・・・P4
4 本人や家族を支える制度やサービス	・・・P5
5 医療機関の役割	・・・P6
◎ さいたま市で相談できるところ	
医療機関・当事者家族の会	・・・P7
相談機関	・・・P8

1 高次脳機能障害とは

高次脳機能障害とは脳の病気や、交通事故等のけがにより、脳がダメージを受けた後に起こる障害です。脳のダメージの場所によって様々な症状が現れます。

日常生活や社会生活を送る上で困難を生じやすい一方で、外見からは障害が分かりにくく、当事者に自覚がないことも多いため、「見えない障害」とも言われています。そのため、障害があると認識されないままご家族が抱え込んでしまうことが多く、適切な理解と支援が必要となります。

高次脳機能障害の主な原因

主な原因となる病気やけがをチェック

- 交通事故や転倒などによる脳挫傷のうざしやう
- 脳血管疾患（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）のうけつかんしつかん のうこうそく のうしゅけつ まくかしゅけつ
- 心筋梗塞、喘息等による低酸素脳症しんきんこうそく ぜんそく ていさんそのうしやう
- 脳炎、脳腫瘍などのうえん のうしゅやう

※病気やけがが原因で、それまでになかった症状が現れることがあります。

※入院中には、目立たないことも多く、診断等を受けずに退院し、家庭生活や職場等で困りごとに気づく場合もあります。

子どもから大人まで
だれもがなりうる病気です



高次脳機能障害についての Q&A

- Q 高次脳機能障害は治るの？
- A 「治る」という言い方はできませんが、軽いものであれば、病気をする前と同じ状態にまで近づくことができることもあります。状態が変わらなくても、環境を整え、社会生活を積み重ねていくことで、過ごしやすくなります。
- Q 高次脳機能障害と認知症、発達障害のちがいは？にんちしやう はったつ
- A どちらも、高次脳機能障害と同じように脳機能が関連することから症状が似ています。認知症の多くは、「覚えられない」「忘れやすい」などの症状が進んでいきますが、高次脳機能障害はよくなることはあっても悪くなることはないと言われています。発達障害の多くが、生まれつきの脳機能の障害であるのに対して、高次脳機能障害は、今までできていたことが、受傷を境に、急にできなくなる「中途障害」である点が異なります。ちゆうとしやうがい

2 症状と対応について

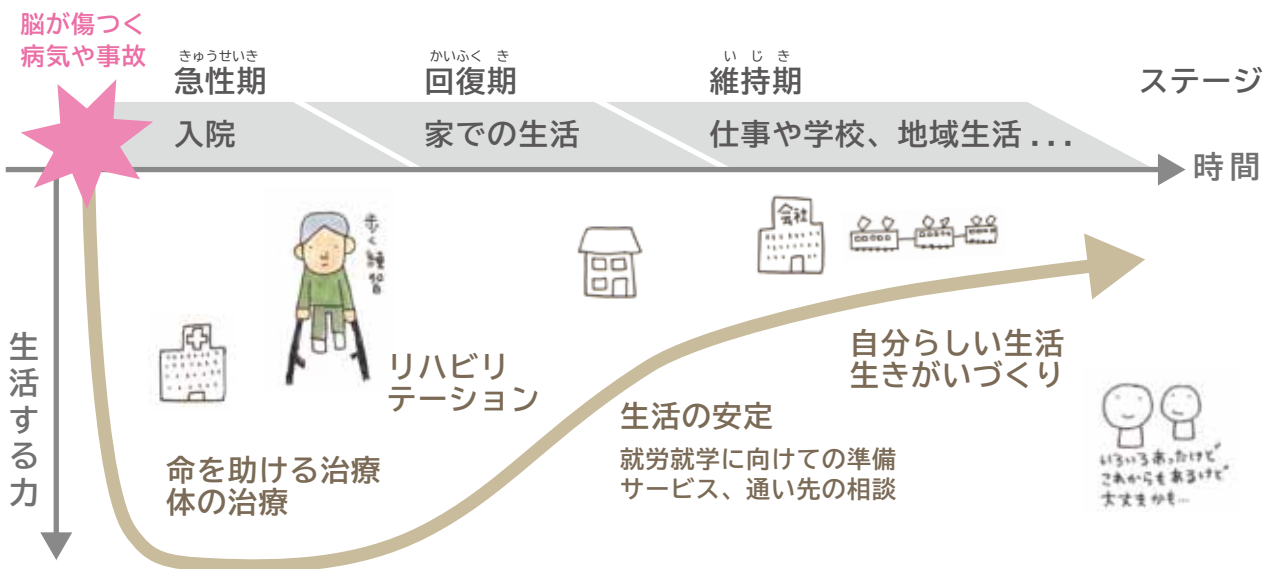
ダメージを受けた頭の場所や程度により症状は異なります。
また、多くの方に複数の症状が重なり合ってみられます。



主な症状	対応案
<p>きおく 記憶障害</p>  <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>新しいことが覚えられない <input type="checkbox"/>自分のしたことを忘れてしまう 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>メモ帳やカレンダーを活用する <input type="checkbox"/>その日の出来事を日記に書く
<p>ちゅうい 注意障害</p>  <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>2つのことが同時にできない <input type="checkbox"/>集中が続かない <input type="checkbox"/>何かをする時にミスが多い 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ひとつずつ取り組む <input type="checkbox"/>注意事項は目の付く所に書いておく
<p>すいこうき 遂行機能 障害</p>  <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>自分で計画をたてられない <input type="checkbox"/>物事の優先順位がつけられない 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>時間に余裕をもって計画を立てる <input type="checkbox"/>作業手順表などを活用する
<p>しゃかいてき 社会的 行動障害 (行動と感情の障害)</p>  <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ちょっとしたことで腹を立てる <input type="checkbox"/>その場に適した行動ができない 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>イライラしたら深呼吸をする <input type="checkbox"/>行動する前に誰かに相談する
そのほかの症状	対応案
<p>はんそくくわかん 半側空間 無視</p>  <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>片側の空間にある人や物、文章を見落としてしまう <input type="checkbox"/>片側にあるものにぶつかりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>片側（無視側）を意識して、見渡す習慣をつける
<p>しつごしやう 失語症</p>  <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>思った言葉が出てこない <input type="checkbox"/>きいた言葉が理解しづらい 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>物や絵、身振り、手振りを利用する
<p>ちしてき 地誌的 障害</p>  <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>よく知っている場所で道に迷う 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>迷った時の対処法を確認しておく
<p>しつこうしやう 失行症</p>  <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>道具がうまく使えない <input type="checkbox"/>普段している動作でも、指示されるとできない 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>使う道具の数を減らす <input type="checkbox"/>順番、動作を図で示したり、矢印、色など用いて関係づける

3 症状等の経過やサポーター

病気や事故の後、急激に能力は下がりますが、その後は徐々に回復していきます。
また、その時期（ステージ）に合ったいろいろなサポーターが支援します。



いろいろなサポーター

- | | | |
|--|----------------|--------------------|
| 主治医 | ケアマネージャー | 通所機関の職員 |
| リハビリスタッフ
(理学療法士 PT)
(作業療法士 OT)
(言語聴覚士 ST) | 障害者生活支援センター相談員 | 職場、学校の先生
ヘルパーなど |
| ソーシャルワーカー (相談員) | | 当事者会、家族会 |

いろいろな機関

- | | |
|----------------|--------------------|
| 区役所の支援課 * など | デイサービス、デイケア |
| 高次脳機能障害者支援センター | 就労支援施設、障害者職業センター |
| 保健所・保健センター | ハローワーク、特別支援教育相談室など |
| 障害者生活支援センター | |
| 地域包括支援センター | |



支援の仕方や関わるサポーターは一人ひとり異なり、オーダーメイドの支援となります



4 本人や家族を支える制度やサービス

原因となる病気や事故、症状、年齢、今後の目標などによって、どの制度を利用するか一人ひとり異なります。

福祉や介護のサービス	経済的な支援
<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> <small>しょうがいしゃ てちょうせいど</small> 障害者手帳制度<input type="checkbox"/> <small>しょうがいしゃ そうごう し えんほう</small> 障害者総合支援法<input type="checkbox"/> <small>かいご ほけんほう</small> 介護保険法<input type="checkbox"/> その他の福祉制度など	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> <small>いりょうほけん</small> 医療保険<input type="checkbox"/> <small>こうてきねんきんせいど</small> 公的年金制度<input type="checkbox"/> <small>ろうどうしゃさいがいほしょうほけんせいど</small> 労働者災害補償保険制度<input type="checkbox"/> <small>じどうしゃほけん</small> 自動車保険<input type="checkbox"/> その他の保険など

色々な制度が
あります



制度やサービス Q&A

Q 退院後の生活については誰に相談すればいいの？

A 入院中であれば、ソーシャルワーカー（相談員）に、退院後であれば、各区支援課*や障害者生活支援センターなどにまずはご相談ください。

Q 高次脳機能障害で取得できる障害者手帳を教えてください。

A 高次脳機能障害の場合、精神障害者保健福祉手帳が対象となる可能性があります。精神障害者保健福祉手帳は医療機関受診日から6か月後に申請が可能となります。年齢や身体状況によって異なる手帳（身体障害者手帳や療育手帳）の対象となる場合もありますので、くわしくは各区支援課*にお問い合わせください。

Q 高次脳機能障害になっても働けるの？

A 高次脳機能障害の方でも働いている方はいます。安定した就労のためには、職場の理解や自分の能力にあった仕事を選ぶことが大切です。就労に関して、支援している機関もありますので、各区支援課*や障害者生活支援センターなどにまずはご相談ください。

*「支援課」はさいたま市の場合。自治体によって担当課の名称が異なります

5 医療機関の役割

医療機関は、原因となった病気の診断、治療やリハビリテーション、経過観察けいか かんさつなどを行います。

診断、治療

原因となった病気の診断、治療を行います。

また、福祉制度の利用のための、診断書の作成も行なっています。



ステージごとの医療機関での対応

①急性期：命を助ける治療を行います。

②回復期：自宅復帰後の社会参加などをめざして、身体機能しんたいきのうや認知機能にんちきのうの回復を目的に診療やリハビリを行います。

③維持期：医療機関での積極的な治療は終了し、自宅や施設での生活の継続を目的に診療や経過観察を行います。

医療に関する Q&A

Q 入院中の本人の状態や今後の見通しについて誰に相談すればいいの？

A 主治医や看護師、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカーなど身近なスタッフに聞いてみましょう。

Q 訓練すればするほど症状はよくなるの？

A 認知機能にんちきのうの回復は年単位と言われていています。筋力トレーニングのように、やればやるほど筋力がアップするというようにはいきません。脳がダメージを受けることで、脳は疲れやすくなっています。それに気づかず訓練ばかりすると、かえって逆効果になることも考えられます。自分に合った訓練と休息が必要です。

Q 10年以上前に交通事故にあいました。それから、覚えられなくなったり、ミスが増えたと感じています。自分は高次脳機能障害なのでしょうか？診断を受けることはできますか？

A 高次脳機能障害者支援センターにご相談ください。事故の前と後でどのように変わっているか、一緒に整理しましょう。高次脳機能障害の可能性も考えられる場合には、医療機関にかかることをサポートします。